

海運の重要性を学校教育の場で
～東京都内で出前授業および海事施設の見学会を実施～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、海事施設の見学会や出前授業の実施等に取り組んでおります。

今般、中野区立北原小学校 5 年生 53 名を対象に、11 月 12 日（水）に出前授業を実施し、11 月 25 日（火）に商船三井、日本郵船の協力を得て大井コンテナターミナル（以下、大井 CT）の見学会を開催しましたので、その様子をお知らせします。

【出前授業概要（11 月 12 日）】

東京港での社会科見学の事前学習として、船や港がどのように生活に関わっているのか、食料品や衣料品を例に、身の回りの多くの物が外国から船で運ばれていることを紹介しました。日本の貿易量の 99% 以上を船が運んでいることを知った児童は驚いた様子でした。

その後は日用品を多く運んでいるコンテナ船を軸に授業を進めました。コンテナの模型を使って、ドライコンテナ（常温）と、リーファーコンテナ（温度調節が可能）の違いを考えてもらい、続いてコンテナ船の航路を白地図に書くワークを実施し、運河や海峡を通り、世界中から様々な貨物が東京港に運ばれていることを説明しました。



出前授業の様子

【大井 CT 見学会概要（11 月 25 日）】

大井 CT では、①ターミナルについて説明を受け、②管理棟屋上から CT 全景を見学した後、③バスでターミナル構内を見学しました。

① ターミナルについての説明

はじめに、ターミナル管理棟内にある会議室で、ターミナルのご担当者から、大井 CT についての説明を受けました。コンテナの重さや揚げ地を考慮して作成された「ストウェージプラン（コンテナの積み方を示した計画図）」や「ヤードプラン（ヤード内のコンテナ配置場所を示した図）」に沿って、効率的で安全な荷役作業が行われていることや、ガントリークレーン、トランスファークレーンといった様々な荷役機器があることを学びました。質疑応答の時間には、児童から「ガントリークレーンの運転は何時間で交代なのか」「トランスファークレーンの操縦室までどうやってあがるのか」「高所で行うクレーン操作は怖いのか」「たくさんあるコンテナはどうやって見分けるのか」といった質問が多数出て、ターミナルの仕事に強い関心を持った様子でした。

② 管理棟屋上から CT 全景を見学

管理棟屋上からは、ガントリークレーンによるコンテナ船の荷役作業のほか、トランスファークレーンによるコンテナの並び替え、トレーラーによるコンテナの搬出入など、様々な作業が同時に行われている様子を見ることができました。児童から出た「地面に書いてあるアルファベットは何か」という質問には、「コンテナの位置をわかりやすく管理するためのもの。アルファベットや番号が振ってあることで、トレーラーはどこにコンテナを取りに行けばよいかが分かる」との回答があり、児童は熱心にメモをとっていました。



屋上からターミナル見学をする様子

③ バスで CT 構内を見学

屋上からの見学後、バスに乗車してターミナル構内を一周し、車内から植物検疫場や、ガントリークレーンがコンテナを持ち上げて船に積み込む荷役作業などを間近で見学しました。特に、荷役中の船の横を通った際には、船のあまりの大きさに児童から「でっかー！」と驚きの声があがりました。コンテナに記載されている識別番号に興味を持ち、番号を読み上げている児童もいました。担当者の解説を聞きながら、夢中で窓の外を見学する児童の姿が印象的でした。



バスで、ターミナル構内を周り荷役中のコンテナ船を間近で見学

当協会は、出前授業等を通じて、海運をはじめとした海事産業を学校教育において取り上げていただけるよう、引き続き活動を展開してまいります。

以上